場所　神奈川県伊勢原市

面積　224.63ha

活動目的　炭素貯留、木材生産などと並行して、社内外に生物多様性の価値を提供することを目的に山林を活用。特に環境教育プログラムを実施し、生物多様性および生態系サービスの普及・啓発に努める。

サイト概要

SMBCの森は、全域が丹沢大山国定公園、大半が県指定丹沢大山鳥獣保護区に含まれる。主な植生はアカシデーイヌシデ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林で、一部に植生自然度の高いフジアザミーヤマホタルブクロ群集、ヤマボウシーブナ群集、シキミーモミ群集を含む。針葉樹人工林では間伐・更新等の施業・管理が実施されており、将来的にJクレジット認証を取得予定。

神奈川県の「水源の森林」に指定されており、潤沢な水資源を有する。大山山頂への登山道があり、登山客やバードウォッチャーなどに広く活用されているほか、社員研修や環境教育プログラムのフィールドとしても活用予定。



土地利用の変遷	地形図および空中写真で遡って確認できる範囲では、森林で構成されており、土地利用に大きな変化は見られない。
サイト周辺の環境	本サイトは、相模川の支川の日向川および七沢川の上流域に位置する。周辺環境は、概ね本サイトと同様にアカシデ－イヌシデ群落もしくはスギ・ヒノキ・サワラ植林で構成された森林である。隣接地に丹沢大山の原生モミ林、ブナ林があるなど、自然度の高い植生も残る。
アピールポイント	長期に渡って維持されてきた森林で、クマタカ、ツキノワグマなどのRDB記載種が生息・生育しているほか、木材生産による炭素固定、水源林、丹沢大山への登山など、基盤・供給・調整・文化的のすべての生態系サービスを有している。

生物多様性の価値

価値（2）原生的な自然生態系が存する場

【場の概況】

本サイト範囲は、植生自然度10に該当する「フジアザミ－ヤマホタルブクロ群集」、「岩角地・風衝地低木群落」、および植生自然度9に該当する「ヤマボウシ－ブナ群集」、「シキミ－モミ群集」を含んでいる。特に、モミ群落は範囲内の斜面上部・尾根部に点在している。これらは、丹沢大山の原生林のモミ、ブナと同様であり、原生的な自然生態系が形成されていることが窺える。

【主な植生】

アカシデ－イヌシデ群落（Ⅴ）、スギ・ヒノキ・サワラ植林、クヌギ－コナラ群集、クリ－ミズナラ群集、ヤマボウシ－ブナ群集、シキミ－モミ群集

【植生自然度】

植生自然度10：フジアザミ－ヤマホタルブクロ群集、岩角地・風衝地低木群落
植生自然度9：ヤマボウシ－ブナ群集、シキミ－モミ群集

【確認された主な動植物など】

●植物相
ブナ、モミ ほか
●動物相
哺乳類：ツキノワグマ、ニホンジカ ほか
鳥類：クマタカ、コガラ、ウソ ほか



写真の説明：ヤマボウシ－ブナ群集



写真の説明：コガラ

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】
植生自然度7に該当する「クリ－ミズナラ群集」、「アカシデ－－イヌシデ群落」、「クヌギ－コナラ群集」が全域に広がっている。急傾斜地の二次的な広葉樹林は、当該価値に相当する生態系が形成されていることが窺える。

【主な植生】
アカシデ－イヌシデ群落（Ⅴ）、スギ・ヒノキ・サワラ植林、クヌギ－コナラ群集、クリ－ミズナラ群集、ヤマボウシ－ブナ群集、シキミ－モミ群集

【確認された主な動植物など】
●植物相
ミミガタテンナンショウ、ナツトウダイ、ナガバノスミレサイシン ほか
●動物相
哺乳類：ニホンジカ、ニホンイノシシ、ヤマネ ほか
鳥類：クロジ、 エナガ、ヤマガラ ほか
両生類：タゴガエル ほか
昆虫：アカタテハ、ヒオドシチョウ ほか



写真の説明：アカシデ－イヌシデ群落



写真の説明：ナガバノスミレサイシン

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトは、水源涵養および土砂流出防止等の防災減災、CO2吸収源としての炭素固定などの機能を有しており、全域が神奈川県「水源の森林づくり」事業の対象範囲である。環境教育プログラム「伊勢原自然塾」を実施するほか、阿夫利神社・大山への参拝客・登山客も利用するなど、観光資源およびレクリエーションの場としての文化的サービスも提供している。スギ・ヒノキ植林の間伐材は活動および自社施設の建材に利用する。

【主な植生】

アカシデ－イヌシデ群落（Ⅴ）、スギ・ヒノキ・サワラ植林、クヌギ－コナラ群集、クリ－ミズナラ群集、ヤマボウシ－ブナ群集、シキミ－モミ群集

【確認された主な動植物など】

●植物相
ミヤマカタバミ、(カントウ)カンアオイ、ランヨウアオイ ほか

●動物相
哺乳類：ニホンジカ ほか
鳥類：ノスリ、カワガラス、シジュウカラ ほか
両生類：アズマヒキガエル、カジカガエル ほか
昆虫：ダビドサナエ、ヒゲナガカワトビケラ ほか



写真の説明：二の足沢上流域のヒノキ植林



写真の説明：アズマヒキガエル

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

本サイト範囲において、環境省および神奈川県のレッドリストなどに記載されている生物種が確認され、動物の繁殖行動（ペアリング含む）や採餌、植物の生育が観察されており、恒常的に良好な生息・生育環境が維持されていることが窺える。

【確認された希少種】

現時点では、環境省レッドリスト2020及び神奈川県レッドリスト掲載種として以下が確認されている。

植物1種
哺乳類5種（ツキノワグマ 神奈川県CR+EN　など）
鳥類16種（クマタカ 環境省EN 神奈川県VU　など）
爬虫類1種（ヒガシニホントカゲ 神奈川県要注意種）
両生類1種（アズマヒキガエル 神奈川県要注意種）
魚類1種（アブラハヤ 神奈川県NT）
昆虫類6種（ウマノオバチ 環境省NT、神奈川県VU　など）



写真の説明：クマタカ　見晴台にて



写真の説明：ツキノワグマの登り痕

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容

●生物多様性保全

・本サイトは長期間、森林として維持されており、生物多様性および生態系サービスに富んでいる。これらを持続的に保全していくために、現状維持を前提に、外来種の選択的な駆除・抜き取り、安全管理のための枯死木等の除去等を実施する。
・モニタリングで記録された希少種・重要種の生息・生育地点を地図化し、活動・施業時における干渉の回避を図り、継続的なモニタリングを実施する。
・一部、生物多様性の向上が期待できる箇所を選定し、シカ対策囲いの設置・更新、林床のシードバンク（埋土種子）の保全（表土掻き、下草刈り・藪払い）等の積極的な管理を実施。

●環境教育プログラムの実施

・本サイト内の自然環境を活用した教育プログラムを実施する。富良野自然塾で実施しているプログラムの実践およびコース（地球の道）整備を行う。社内研修での利用および外部希望者の参加を想定している。
・生物多様性の保全活動およびモニタリングを、社員研修の一環で実施する。環境プログラムで利用するエリアおよび登山道の周囲で定期的に踏査する。一部でシカ食害圧の対策（間伐材を利用した移動抑制・シカ柵、表土掻き等）を施し、植生・昆虫相調査により保全効果を把握する。

●森林施業

・針葉樹人工林では、間伐・更新等の管理を実施し、木材生産、水源保全、林床植生の生育・更新を図る。木材は自社施設の建築・家具用材として利用予定。
・広葉樹天然林では、生物多様性および水源の保全を念頭に、現状維持とする。散策路・登山道等の利用箇所では、過繁茂の低木や枯死木・倒木の除去を実施する。

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】

●植物相（維管束植物、相観植生図）
●動物相（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、水生生物）

【モニタリング場所】

●全相モニタリング：全域
●植生・昆虫相調査：植生区分毎および保全対策箇所で実施
●希少種モニタリング：日向渓谷キャンプ場跡地・散策路・登山道の周辺

【モニタリング手法】

●植物相：任意踏査、植生調査　●哺乳類：定点カメラ、フィールドサイン調査
●鳥類：ポイントセンサス・任意踏査　●爬虫類・両生類、昆虫相：任意踏査
●水生生物：目視・捕獲調査　●全相：環境DNA網羅的解析

【モニタリングの実施時期及び頻度】

●全相モニタリング：2024年（通年）に実施・1回/5年（次回更新前）
●植生・昆虫相調査：保全対策箇所における活動効果を確認・2-3回/毎年
●希少種モニタリング：対象種の生態に合わせて実施・1-3回/毎年

【モニタリング実施体制】

活動・モニタリングの実施主体：株式会社三井住友銀行・管理部
●全相モニタリング：専門家等の指導の下で計画、調査会社に実施委託
●植生・昆虫相調査：調査会社等の指導の下、社員研修等の一環で実施
●希少種モニタリング：調査会社等の指導の下、社員研修等の一環で実施